

## 巻頭エッセイ

### ニーズに対応した準備を

中本 隆

国土交通省港湾局技術企画課  
技術監理室長



いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックが間近となってきました。今大会では新たに5競技18種目の追加が決定され、これまでの様々な話題も含めて、一層の賑わい、盛り上がり、選手の皆さんの活躍を期待したいところです。

翻って自分自身は全くの運動不足。気候の良くなった昨秋、目覚めが早くなっていることもあり、思い立って週末の早朝に数キロ走ることを始めました。直近で走った記憶などなく、多分数十年ぶり。走り始めは苦しいものの、慣れてくれば思いのほか継続できそうな気がしていました。しかし、2ヶ月ほど続けたところで、足首関節が痛み始め、休養期間をおいたところで、ウォーキングに転換していました。こちらの方は、前勤務地の四国にて、ご多分に漏れず八十八カ所巡りを通じていくらか慣れがあります。地域公共交通の維持を担当していたこともあり、鉄道、路線バス、コミュニティバスを主に、観光地や市街地が近ければレンタサイクルが利用でき、そうでなければ徒歩で巡りました。ほどほどの加減で周囲の景色を楽しみながら歩く。自宅の周囲では景色が限定されてくるのが難点ですが。

比べるべくもないですが、選手の方々には日頃の練習の成果を発揮してもらいたいものです。一方、関係者の方々には、会場や関連設備等の整備に尽力、総仕上げを進められていると思われます。臨海部では、競技会場を始めとする多くの大会関連施設が港湾施設と近接していることから、大会期間中は関係車両と港湾物流関連車両のルート重複による大変な混雑が予想されています。関東地方整備局にて進めている「臨港道路南北線」は、新たな施設整備が進む中央防波堤地区と有明地区を結ぶ臨港道路であり、コンテナ車両の増加に対応し円滑な物流機能を確保することを目的としています。近隣には「海の森水上競技場」等の大会関連施設があり、大会期間中は関係者の輸送ルートとしての活用も想定されています。昨年誕生した「東京港海の森トンネル」も含め、周辺・関連交通の円滑化に多に期待されることです。

話題は変わりますが、昨年11月に洋上風力発電設備の設置等の基地となる港湾の確保等を内容として港湾法が改正され、2019年4月から施行されている「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用

の促進に関する法律」と併せて、洋上風力発電の建設に向けた動きが進展しています。

洋上風力発電の建設においては、近隣港の基地港としての指定による整備や風車の建設に伴い多くの作業船が携わりますが、最近では風車の大型化も進展しており、対応した自己昇降式作業台船（SEP船）の建造なども進められていると聞いています。

現在は、促進区域あるいは有望な区域として選定された各地において、協議会が設置され、具体化に向けて活発な活動が進められており、洋上風力発電の普及が期待されています。

さて、多くの方がご承知の通り、国土交通省港湾局では、3種類の直轄作業船を所有、運用しています。流出油回収機能を有する大型浚渫船3隻、海面のゴミ回収や油回収を行う海洋環境整備船13隻、港湾工事の監督・各種調査等を行う港湾業務艇50隻以上が、全国の直轄事務所に配備され、先の海底トンネルほか港湾施設の整備などに携わっており、加えて、災害発生時には支援活動にも従事しています。昨年の台風17、19号をはじめ、近年は台風や大雨等の風水害による災害対応が増加し、また南海トラフ等の巨大地震による大規模災害の発生が懸念されることから、災害時の支援機能等の強化も期待されています。

一方、作業船の老朽化も進んでおり、補修は進めているものの、日々の業務の実施や災害発生後の支援体制の確保には、乗組員や関係者の不断の努力に依るところ大となっている状況です。作業船が平時及び災害に対応可能な体制と信頼性を保持していくためには、計画的な整備と更新は必須であり、また前述の洋上風力発電の動向や遠隔離島の工事、管理など新たなニーズに合わせた支援・業務機能等を考慮していく必要があります。

そのため、今後の作業船の代替船建造にあたっては、船舶の通常作業の効率化及び災害支援機能、環境負荷の軽減など検討していくこととなります。関係者の皆様には、是非、画期的かつ先進的な船の提案に向け、お知恵をお貸しいただけますようお願いいたします。

この巻頭エッセイは、東京オリンピック・パラリンピック延期決定以前に受け付けたものですので、当初の原稿のまま掲載することとしました。